非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014　Fax 076-251-3930
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

2018 年 1 月 20 日　月刊第 234 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　若者に問いかけよう～硬軟自在に　井上英夫
2 面　『君たちはどう生きるか』　五十嵐正博
3 面　2018 年３・１ビキニデー 開催案内
4 面　だれの子どももころさせない　西郷南海子
6 面　石川県知事選挙　多選ストップ, 原発ＮＯ！　新しい知事を誕生させる会　1 月 20 日発足
新刊案内
「しあわせになるための『福島差別』論」
7 面　〈エッセー〉
戦争を知らない世代の責任　内藤英一
〈独標〉上下　左右　裏表　山口修治
8 面　石川の地域点描 シリーズ　中西　優
絵手紙コーナー　田伏久子

二〇一八年　年頭所感

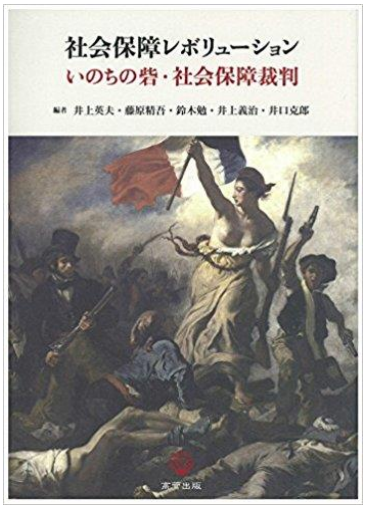
若者に問いかけよう～硬軟自在に

代表世話人　井上英夫

明けましておめでとうございます。

「戦前」が始まっている。今年は日本の歴史にとって分岐点となるでしょう。五十嵐正博さんも言うように「若者よ、君たちはどうする」、今こそ真剣に問いかけなければならないと思います。何より、戦場に駆り出され、殺し、殺される可能性が高いのは今の若者なのですから。

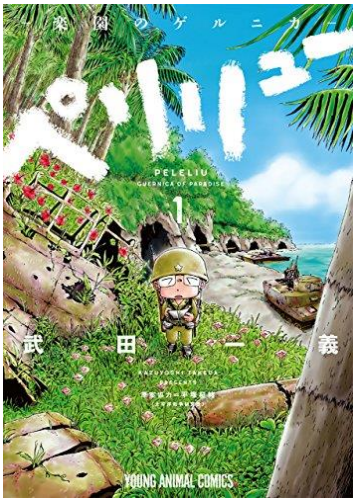
ところが、大学生にそうした戦争・徴兵制すら迫っているという危機感、切迫感はほとんど感じられません。それどころか、昨年ショックを受けることが起きました。



時代遅れじゃありませんか

一年生を対象に人権・ジェンダー論を講義し、第二次大戦の悲惨な結果への反省に始まる現代の平和と人権の歴史を話しています。ナチスのホロコースト、日本については、原爆等被害者の側面だけでなく七三一部隊、慰安婦問題など加害者責任についても話し、それらが今につながっていることを強調しています。

感想のなかに、先生の話は「時代遅れだ」というものがありました。大学で、四〇年以上若者と接してきたわけですが、初めての反応でショックを受



花鳥風月

非核の政府を求める石川の会の結成総会は八八年八月一〇日、金沢市観光会館で開催され、記念講演で寿岳章子・前京都府立大学教授は「非核の政府を求める会は、核兵器廃絶の課題を実現する反核平和運動と、国民自らの手で『われわれの政府』をつくるという国民主権運動の二つの側面を統一して進めること」の大切さを指摘された▼本会は一〇年の節目毎に「一〇年の歩み」「二〇年の歩み」を発行しており、結成三〇年を迎える今年夏を目途に「三〇年史」の編集を進めている。「三〇年史」は一〇年史、二〇年史を簡略にまとめたうえで「その後の一〇年の歩み」をふりかえり、次の一〇年先の展望につながるものを想定している▼最近一〇年間の核兵器をめぐるトピックスは、一七年七月に国連で核兵器禁止条約が採択され、同年一二月にこの条約制定に貢献したＩＣＡＮがノーベル平和賞を受賞したことである▼ＩＣＡＮの加盟団体である平和首長会議は、自治体から「核兵器禁止条約を支持し、日本政府に署名を求める」取り組みを提唱しており、平和首長会議に一〇〇％加盟している県内各自治体における「被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」の推進が問われている。（か）

けました。

このような学生たちに何をどう伝えたらよいか。今は、多様な媒体、表現により「硬軟」両面から若者に語りかけるしかないと思っています。

硬派で迫る「革命」路線

まず、硬派からですが、昨年『社会保障レボリューション―いのちの砦・社会保障裁判』（高菅出版）を出版しました。

表題を勇ましく、レボリューション＝革命としたのは、憲法上許されない不平等・差別の拡大、生命権すら奪われている事態に対して、今こそ、人権としての社会保障の旗を掲げ、憲法九七条が認める「革命」・レボリューションを起こすしか道はない、と思ったからです。

ソフトに「ゆるきゃら」路線で

そして、ソフト＝ゆるきゃら？路線としては、『ペリリュー　楽園のゲルニカ』（白泉社）です。一九四四年、日米両軍約一万三〇〇〇の若者が無残な死を遂げたパラオ共和国ペリリュー島の戦闘を描いた漫画です。

作者の武田一義さんは、「漫画である以上読みやすく面白く」と言うのですが、第四六回日本漫画家協会賞優秀賞を受けています。ちばてつやさん直筆の表彰状には、「可愛らしい温もりのある筆致ながら『戦争』という底知れぬ恐ろしさと哀しさを深く表現して見事です」とあります。

『はだしのゲン』、水木しげる、とも違うこんな「路線」もあるのだなー、と「痛快」な気持ちになりました。今、二月末に出されるという第四巻を心待ちにしています。

以上、是非ご一読ください。

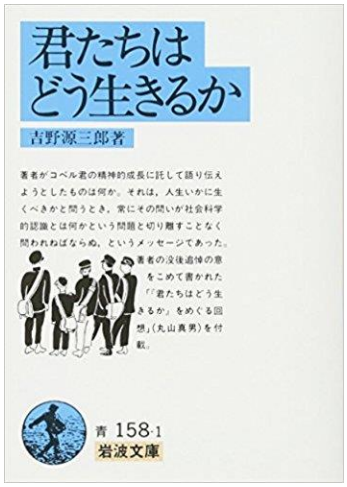
二〇一八年元旦、尾山神社前で「ヒバクシャ国際署名」を呼びかけました

毎年恒例の元旦マラソンの参加者の署名協力もありました

二〇一八年　年頭所感

『君たちはどう生きるか』

代表世話人　五十嵐正博



あけましておめでとうございます。今年、私たちは「アベ改憲」を阻止できるかどうかの分水嶺に立たされています。憲法違反の横暴の限りをつくす首相は、年頭会見で、「今こそ新しい時代への希望を生み出すような憲法のあるべき姿を示す」と表明しました。厚顔無恥とはこのことです。

吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』が、異例のブームになっているそうです。それは一九三五年のことでした。「一九三一年のいわゆる満州事変で日本の軍部がいよいよアジア大陸に侵攻を開始してから四年、国内では軍国主義が日ごとにその勢力を強めていた時期」です。山本有三は考えました。せめて少年少女だけは「時勢の悪い影響から守りたい、・・・この人々にこそ、まだ希望はある。だから、この人々には、偏狭な国粋主義や反動的な思想を超えた、自由で豊かな文化があることをなんとしてもつたえ・・、人類の進歩についての信念をいまのうちに養っておかなければならない」（『岩波文庫版』）。山本有三は、このように考えて『日本少国民文庫』を計画しました。吉野は、その文庫の編集に携わっただけでなく、その最後の一冊として執筆したのが『君たちはどう生きるか』でした（盧溝橋事件の一カ月前に発行）。

ノーベル平和賞授賞式で

昨年、国連総会において核兵器禁止条約が採択され、ＩＣＡＮがノーベル平和賞を受賞しました。被爆者の方々の長年のご苦労が報われた瞬間でした。

唯一の戦争被爆国は条約案に反対

票を投じ、平和賞の受賞に冷淡でした。授賞式で、サーロー節子さんは、被爆者の皆さんの声を代弁して、「核兵器と人類は共存できない」こと、「核兵器は絶対悪」であり、核兵器国だけでなく、「核の傘」の下にある共犯者に、「私たちの証言を聞き、私たちの警告を心に留めなさい。そうすれば、必ずや、あなたたちは行動することになることを知るでしょう。あなたたちは皆、人類を危機にさらしている暴力システムの不可欠の一部分なのです」と語り掛けました。

今年の世界終末時計は？

世界終末時計（原子力科学者会報）は、昨年一月一七日、トランプの核兵器や気候変動に関する発言から、前年より三〇秒進め、残り二分三〇秒としました。今年、終末時計がさらに進められないことを祈ります。

若いころ、金沢に住んだこともある日本近代史・日米関係史の権威、ジョン・ダワーが、昨年、『アメリカ　暴力の世紀』（岩波書店）を出版しました。彼は「日本語版への序文」において、「日本の保守主義者や新愛国主義者たちが熱望しているように、日本がもっと『普通の』軍事化を促進するために憲法を変更するようなことがあれば、戦後日本国家の性格を変えることは間違いない」と述べ、「トランプらが着手すると思われる新しい軍事戦略に、『積極的に』貢献するようにとの圧力をますます強くうけるようになる」と憂慮しています。

権力の暴走を阻止する憲法

安倍首相は、憲法が、権力の暴走を抑止するためにあるのだという立憲主義を全く理解しないどころか、「軍隊を自由に海外に展開し、権力が国民を縛りつける」「古い時代への絶望を生み出す」憲法づくりを周到に進めてきました（特定秘密保護法、共謀罪、戦争法など）。彼の関心は、トランプの顔色、株価の動向や有効求人倍率といった「数字」であり、沖縄の米軍基地、震災、原発事故の被災者、貧困にあえぐ人々、老齢者、待機児童などには目もくれません。

今後、ナチスの「手口」そのままに、マスメディア、広告会社、神社本庁、日本会議、はたまた芸能人、スポーツ選手などを総動員し、「国民の安全・生命を守るために」との詭弁をろうし、はては「最大の国難」を叫んで危機をあおり、情緒に訴えかける宣伝を日本列島に洪水のごとく流すでしょう。

「国威発揚」と称してオリンピックを政治利用するでしょう。「憲法のあるべき姿」は、無能、有害な為政者の存在を認めてはならないのです。

一人ひとりが社会を変える時代

今年は「明治一五〇年」でなく、市民運動の原点ともいうべき「米騒動一〇〇周年」、世界人権宣言採択七〇周年、「非核の政府を求める石川の会」三〇周年になります。吉野源三郎は、主人公の少年に「僕は、すべての人がおたがいに良い友だちであるような、そういう世の中が来なければいけないと思います」と語らせ、最後に読者に問いかけます、「君たちはどう生きるか」と。

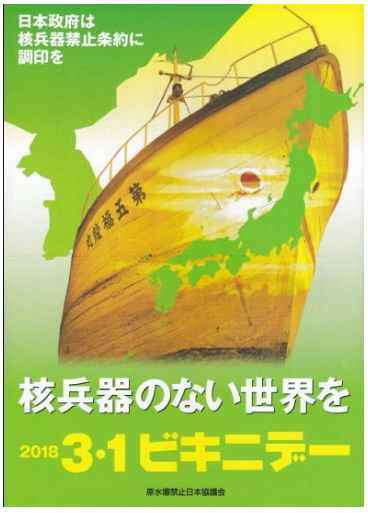
吉野は、山本の考えに共鳴して、「偏狭な国粋主義や反動的な思想を超えた、自由で豊かな文化があること」をつたえ、いつか少年少女一人ひとりが社会を変えてくれる時代が来るとの祈りを本書に込めたのでした。

侵略戦争の渦中で非業の死をとげた国内外のおびただしい数の人々、戦争に反対し、自由を求めたがゆえに、過酷な拷問を受けた人々、暗黒の日常の中でひっそりと平和を希求した人々、日本国憲法には、そうした人々の「平和と自由」への強い願いが込められています。「君たち」一人ひとりは、日本国憲法を生かすための「主権者」、主人公なのです。

2018年3・1ビキニデー日本原水協全国集会　開催案内

共通テーマ　核兵器禁止条約を力に、核兵器のない世界、非核平和の日本の実現を

国際交流会議	2月27日(火)14:30～17:30　静岡グランシップ 11F
全体集会	2月28日(水)13:00～15:00　静岡グランシップ・中ホール
東富士基地ウオッチング	2月28日(水)8:15～12:15　集合:JR静岡駅・南口
分科会(6会場)	2月28日(水)15:30～18:30　静岡グランシップ内
被災64年2018年3・1ビキニデー	
墓参行進	3月1日(木)　9:15　JR焼津駅南口集合
墓前祭	3月1日(木)10:30～11:30　弘徳院
3・1ビキニデー集会	3月1日(木)13:00～15:30　焼津市文化センター・大ホール



◇講演要旨◇

だれの子どもも　ころさせない

安保関連法に反対するママの会発起人　西郷南海子

講師の西郷南海子さん

京大入学時に伊藤真弁護士の講演会で**「憲法と法律は強要する方向が逆なのだ」**という指摘に衝撃を受け、憲法は**政治をする者たちへの私たちが突き付けた約束**だと知りました。

同時に、自民党の改憲草案は憲法本来の方向を真逆にして「～は～しなさい」という民衆の自由を圧し潰すものですが、それに口を閉ざす教授たちと、出世を考えて自分の考えを持とうとしない学生たちに失望しました。

○六年の教育基本法の改悪の時は大学一年で、国会に夜行バスで駆けつけました。その時は国会の裏での抗議行動だけでした。それでも多くの人と接点が生まれました。その中のお一人から「私は君が代を歌えないのです」とお聞きし、私は初めて歌えない人の存在を知りました。朝鮮学校の人達とも出会えました。法律がこうだから現場はこうだではなく、工夫次第で何かできるし、「現場で止めることが鍵だ」と思うのです。

新聞発行の面白さ

私には小さい頃から〝人に伝えたい〟という衝動があり、「みな子新聞」「歴史新聞」を発行していました。それは児童時代の体験に源流があります。そしてそれは英国での体験でさらに強いものになりました。新聞発行は教師との文通手段でもあったのです。

何故新聞を書き始めたのかというと、「小さな生活者のための週末ブック」という本から、**生活というのは自分で創れるのだ**と知って、その面白さに惹かれたのです。またその本の中に「子ども新聞を作ろう」という頁があり、これを見た時にやりたいとしか思わなかったのです。そしてその中に〝自分の意見を忘れずに〟と書いてあるのです。更に**〝新聞を発行する時に大切にしたいことは、①キチンと取材して正確に伝えること、②思ったことを自分の意見として発表すること〟**と書いてあるのです。事実伝達だけではなく、自分の意見を載せてはじめて新聞なのだと書いてあるのです。

いま自分が核兵器廃絶は当然だとか新基地建設に反対するのは当然だとか思うのは、子どもの頃に考えていたからです。子どもなりに「なぜ沖縄戦で沢山の方が亡くなったの？」「日本軍は住民のことを考えていたの？」などと思っていたのです。

一所懸命の私に小学校の担任の先生が「あなたが言うように、周りに甘え切って自分でものを考えない人間になりたくないね」「この素晴らしい自主学習の力を伸ばして下さい」などとすごく励まして下さいました。このように先生が私を受け止めて下さり、それが嬉しかったから出来たことだと思うのです。

自己教育力をどう育むか

英国の公立小学校に一年通っていましたが、座席は決まっていなくて、机の向きも各々で、教科書すらなく、先生もその日に時間割を決めるのです。英国の教育は自由で枠がないのです。このことは**〝子どもが学校をつくる〟〝自分で自分をつくる〟**ことを教えていることに他なりません。

大学法学部に馴染めないなかで夫に出会い、二〇歳で出産しました。法曹界をめざす周りの人達は、私にどう反応したらよいか分からない様子で、私自身も不安がありました。でも「必要なことは子どもが教えてくれるよ」と教えて下さる人がいたり、産婦人科では周りと同じ妊婦さんとして扱ってくれるのに救われました。

大学二年の秋に出産を迎えたのですが、さっきまでお腹の中で羊水に浮いていた命が、生まれ出た瞬間に肺が開いて呼吸し始めるのは、本当に凄いと思いました。そこに新しい人がいる、生まれるだけで凄いのだ、と感動しました。こうして育児が自分の〝現場〟になりました。

人が生まれて育つことはそれだけで尊いことなのに、お金になるとか役に立つとか、理由がなければ生きていてはいけないのか、そのようなプレッシャーを私自身、感じていました。特に法学部という中では、いま自分が生きていることよりも「○○力」という

もので価値が計られるのです。赤ちゃんは何かをしてくれるわけではないけれど、息をして育っているのです。原点はそこにあるのです。同時に、人が生まれて育つのは素晴らしいことなのに、ママたちはどうしてこんなに孤独なのか、いつも疑問でした。

そんななか大学に戻るため保育園に入れたのですが、そこで赤ちゃんたちがテーブルを囲んで離乳食を食べている姿を見た時、ここに一つの社会が生まれていることに感動しました。法学部では条文の解釈とか判例研究があるのですが、「そういうのより赤ちゃんがご飯食べてるのが凄いじゃん」と思いました。それで「京大やめてやる」と思ったのですが、それは皆に止められました。法学部に行く意味が分からなくなりましたが、卒業するというのが子どもを産む条件だったので、どこか入り直す必要があり、教育学部への転学試験を受けました。

デューイとの出会い

転学の下調べをしようと教育学の本を読んでいたら、ジョン・デューイとの出会いがありました。こんなに子どものことを分かっているのかという衝撃を受けました。大人が設定した目標のために子どもが生きているのではなく、子どもがいま成長していることそれ自体に価値があることに気付かされました。私は「〇〇力」がその子よりも大事になっているのが薄気味悪いのです。「成長というのは何かをクリアすることではなく、いま成長しつつあること自体が価値なのだ」とデューイは言い切っています。

デューイは民主主義の哲学者といわれ、語としての〝ｃｏｍ〟を多用して「あらゆるコミュニケーションは教育的である」「経験を伝えあい分かち合う中にこそ社会が生まれる」「未成熟は欠如ではない。むしろ力なのだ」「教育の目的は教育それ自体である」「生きることはそれ自体固有の価値を持つものであり、教育の任務はその価値に関するものである」等の言葉を残し、分かち合うことの大切さを説いています。私はこの考え方に出会えてとても嬉しかったのです。

就活では、学生は皆同じ服を着て、アレコレの指示を受けて〝自分は規格に適合している商品です〟みたいな顔をしています。そうしないと生きづらい社会というのはオカシイです。私は子どもたちがその子らしく、一瞬一瞬を全力で生きていることに意味があると思うのです。

いま学校は「ニコニコ、キラキラ、フワフワ」みたいな標語ばかりです。道徳の時間に「チクチクことばをやめてフワフワことばにしましょう」などと指導しています。私はこのことが不思議です。安倍政権にフワフワ言葉は届きません。これは子どもに限らず、人が生きることよりも人の能力の方が大事にされている、つまり転倒社会になっている、そしてそれを疑う余地もないことの現れだと思うのです。

どういう社会を望むのか

デューイは、どういう社会を望むのか、問いかけます。**「民主的社会は、外的権威に基づく原理を否認するのだから、それに代わるものを自発的な性向や関心の中に見出せなければならない」**と述べ、その基準は**①相互の関心を社会統制の一要因として信頼すること、②社会的集団が自由に相互作用し、社会的集団に変化が起こること**、と述べています。

ＳＥＡＬＤｓの国会前での抗議行動で以下の速いコールがありました。

This is what democracy looks like!
Tell me what democracy looks like!

とてもよくできています。知らない者同士が集まって訴えていること、多数派のために結果が見えているとしても、現場に自分自身が立ち会って意見を言うこと、それが民主主義なのです。「ママの会」の家庭内でも論争がたくさんあり、「国会に行っても意味ないじゃん」と言う夫と「黙認出来ない」妻が離婚するケースもありました。

私の現実は職種としての「ママ」「ワンオペ育児」です。でもまずは自分がやろうという気持ちです。もっと良い生き方はないのかと模索しながら育児をし、命の重みを理解しない政治を変えたいと思います。他人から「応援しています」と言われたら「それより一緒に頑張ろうだと嬉しいな」と応えています。他人事にしないことです。

国会には、誤魔化さずに自分たちの意見を言う「代表」を送りたいのです。自分自身の生き方を言えないのに「受け皿がない」と簡単に言ってほしくないです。まずは口に出すことからです。最低賃金でさえ言い出せずに委縮させられている現実を変えたいのです。

私たちは絵本作りを通して自分たちに何ができるか考えています。**合言葉「だれの子どもも殺させない」に反対する人はいません。実際に担わされるのは「だれかの子ども」、それを止めるのも「だれかの子ども」なのです。**

「戦争の理由、つくるの止めよう」
「戦争の道具、つくるの止めよう」

◎一二月二六日、片山津で開かれた「石川冬の集会」の講演要旨です。主催は日本生活教育連盟石川サークル。

石川県知事選挙

多選ストップ！　原発NO！

新しい知事を誕生させる会　一月二〇日発足へ

谷本知事の多選ストップ・志賀原発の廃炉を中心課題にいしかわ市民連合、立憲民主石川、日本共産党石川県委員会が共同して「新しい知事を誕生させる会」を発足させることになり、一月五日、県庁記者室で記者会見が行われました。当日は呼びかけ人七人の参加があり、それぞれ県知事選挙に向けた意見が述べられ、報道各社との質疑応答がありました。

河合隆平氏、粟森喬氏、秋元邦宏氏の三人の会見を紹介します。

写真左から河合隆平氏、粟森喬氏、秋元邦宏氏（１月５日、県庁記者会見室）

河合隆平（いしかわ市民連合共同代表）

いしかわ市民連合は市民と野党の共闘の接着剤の役割を果たしてきた。今回の知事選挙でも同じ姿勢を貫いていきたい。県政の何が問われているのか、どのような争点、選択肢があるのか、私たち市民連合でも話し合いを進めてきた。しかし、谷本知事がどのようなビジョンを持って県政に取り組んできたのか、姿が見えないという声が多数あった。県民の声を聞く姿勢が弱いのではないか。県民のいのちや暮らしを守る観点から県民の声に耳を傾けてくれる新しいリーダーを誕生させたい。

粟森喬（立憲民主石川共同代表）

多選について否定的な意見がたくさんある。このことが県政や知事選に反映されないことにつき、県民の皆さんに呼びかけたい。私たち立憲民主石川と共産党が「多選反対」を掲げて知事選挙を行うことになった。また、県政の大きな課題である原発問題について、最近では新潟県や鹿児島県で「原発はいらない」という県民の総意を結集して知事選で勝利した。原発については世論調査をみても多くの県民が否定的な意見を持っている。今の知事は県民の意見を代弁しているか、否かは些か疑問がある。このような県民の声を反映させるのが、今度の知事選挙である。この外、県政の課題はたくさんあるが、私たちが掲げるのは、原発反対の県民の意思を結集し、結果として多選をストップする選挙にしたい。

秋元邦宏（日本共産党石川県委員会委員長）

谷本知事は地方自治の本旨に照らして重大な歪みがある。憲法にもとづき地方自治が確立されたのは民主主義の根本である。地方自治体は国の下請け機関であってはならない。同時に住民自治の精神が大事である。一部の人たちの意見しか聞かない県政、県民の声が届かない県政は間違っている。この県政を変えたい。また原発問題は県民のいのちと安全に責任を果たすことが知事の大事な役割であり、その権限もある。知事選の投票日となる三月一一日は福島の原発事故から丁度七年目になる。県民のいのちと安全、未来に責任を果たす知事を選ぶ大事な機会にしたい。昨年から市民と野党の共闘の大きな流れが生まれており、県政でもこの流れをさらに広げて、政治の流れを変える力に発展させていきたい。

・・・・・・・・・・・・

石川県に新しい知事を誕生させる会スタートミーティング

日時　一月二〇日（土）午後二時

会場　石川県地場産業振興センター第五研修室

非核・平和のひろば

新刊案内

『しあわせになるための「福島差別」論』

池田香代子・開沼博・児玉一八
清水修二・野口邦和・松本春野

原発事故がもたらした差別と分断―それを乗り越えるにはどうしたらいいか、それが本書のテーマである。

原発事故後の福島が抱える問題はとても複雑化している。健康被害について、原発の是非について、復興や廃炉の進捗について、様々な認識や意見があるが、この七年間で多くのことが明確になってきた。本書はこれまで積み重ねられた福島の事実をもとに、文系、理系、医療系の専門家など一四人が多面的に執筆している。

第一章　福島原発事故はどんな被害をもたらしたか
第二章　善意と偏見―不幸な対立を乗り越えるために
第三章　七年たって考える放射能・放射線
第四章　被曝による健康被害はあるのかないのか
第五章　事故現場のいまとこれから

編者として福島大学名誉教授の清水修二先生は「はじめに」のなかで次のように述べている。

◎「（被害者）それぞれの判断と選択をお互いに尊重すること」、「科学的な議論の土俵を共有すること」が不可欠である。

◎私たちが基本にしているのは「先入観を排除し、事実にもとづいて事柄を扱う」態度であり、そのことと「被害者の人権の回復を目指す」こととは決して矛盾しないはずである。

・・・・・・・・・・

七年目を迎える原発事故後の福島を考えるとき、多くの人々に読んでいただきたい一冊である。

・発行年月　二〇一八年一月
・体裁　Ａ４版２４８頁
・税込価格　二、四八四円
・出版社　かもがわ出版

非核石川の会リレーエッセー

戦争を知らない世代の責任

内藤　英一

昨年の一二月はじめに、「はしだのりひこ」氏の訃報を聞いた。「かえってきたヨッパライ」や「悲しくてやりきれない」「イムジン河」などのヒット曲で知られる、ザ・フォーク・クルセダーズのメンバーの一人だ。彼らの曲で、高校時代みんなでよく歌ったのに「戦争は知らない」というのがある。

「野に咲く花の名前は知らない、だけども野に咲く花が好き」・・、「戦争の日は何も知らない、だけど私に父はいない」・・「見ていてください遥かな父さん、いわし雲とぶ空の下、戦知らずに二十歳になって、嫁いで母に、母になるの」、先の大戦で父を亡くした娘が、結婚にあたって父を偲ぶ内容の歌詞である。

はしだ氏を含め私たち団塊の世代は、戦争を直接体験していないが、戦争を体験した父や母から何らかの影響を受けてきた世代と言える。私の父は、中国各地を転戦しベトナムで終戦を迎え一年遅れて帰国した。父は晩年、戦死した部下の遺族の家を回りたかったが果たせなかったとよく漏らしていたが、詳しい戦争体験を聞くことなく送ってしまった。義父は、シベリアの抑留体験を持ち、義母は満州からのつらい引き揚げ体験を持っていたが、これも詳しく聞き取る機会を持たないまま送ってしまった。いま思えば残念なことだと悔やまれる。ただ機会あるごとに、「戦争だけはだめだ」という思いは聞かされてきた。

新憲法の下で教育を受け、人生のすべてを平和憲法の下で過ごし、「戦争は許さない」「平和憲法を大切にしたい」という思いを受け継いできた世代である。ジローズの歌「戦争が終わって僕らは生まれた、戦争を知らずに僕らは育った、大人になって歩き始める、平和の歌をくちずさみながら・・」と青春時代を過ごしてきた世代が、子や孫たちに何を引き継ぐかが問われる年代になった。

安倍九条改憲を許すかどうか、正念場の年である。私たちの世代の責任をしっかりと果たす年にしたい。

詩人会議かなざわ「独標」より

上下　左右　裏表

山口　修治

１９４４年６月１８日
日本陸軍伍長の叔父は
インドアッサム州の３６８７高地で
戦死
銃弾に倒れたのか餓死かは　不明

２０１７年５月
叔父は　実家の奥座敷の鴨居の上で
憲法９条に自衛隊を明記するという
ゆく末を
じーっと見つめている

戦争はもうしない
国際紛争解決の手段としての武器を
放棄した
そう宣言して国際社会に復帰したは
ずなのに

上下　左右　裏表
どこから読んでも
『自衛隊』の文字が入り込む余地は
ない
小学生でも　わかる

いや
小学生の素直さがあれば　わかる

シリーズ 石川の地域点描 ⑯

フォトグラファー　中西　優

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は安倍政権のもとで憲法や民意を無視した政治が進み、様々な疑惑が未解明のまま残された一方で、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）がノーベル平和賞を受賞するなど大きな前進もありました。

今年は今後の日本の政治と私たちの生活にとって重要な年になりそうです。

雪が舞う、ひがし茶屋街

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　田伏 久子

「安倍9条改憲NO！ 憲法を生かす全国統一署名」を本紙に同封しました。ご活用をお願いします。

非核の政府を求める石川の会

浅野川沿いで休むユリカモメ

非核平和の掲示板

	日	曜	時	内　　容	場　　所
1	23	火	18:00	平和と民主主義を求める 第20回新春の集い／放談 西本多美子さん	金沢市昭和町・平和と労働会館 3階ホール
	24	水	12:50	「戦争法廃止・共謀罪廃止・立憲主義を取り戻す」昼デモ	金沢市広坂・いしかわ四高記念公園　教育会館前口
	27	土	14:00	NPO法人未来塾・大人の学び／市民講演会　中北浩爾さん	金沢市鞍月2丁目・地場産業振興センター　本館5階
	27	土	13:30	映画「明日へ　戦争は罪悪である」 能美上映会	能美市・根上総合文化会館 円形ホール
	28	日	10:00	同上　金沢上映会（2回目　13:30　3回目 18:30）	金沢市広坂・21世紀美術館 B1階シアターホール
	29	月	13:30	同上　輪島上映会（2回目　17:30）	輪島市・輪島診療所 元気ハウス
2	3	土	12:30	映画「日本と原発4年後」 上映とトークin金沢	金沢市三社町・石川県女性センター ホール
	3	土	13:30	現代に生きる「資本論」学習会　友寄英隆さん	金沢市武蔵町・ITプラザ武蔵 5階研修室
	4	日	13:00	新春社会保障講演会 「2018年日本の社会保障をめぐる情勢と課題」 横山壽一さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ 4階集会室
	7	水	12:50	「戦争法廃止・共謀罪廃止・立憲主義を取り戻す」昼デモ	金沢市広坂・いしかわ四高記念公園 教育会館前口
	9	金	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	11	日	13:30	「建国記念の日」反対　平和と民主主義を考える集い 「僧侶としての使命と平和運動・いのちの尊厳について」 河崎俊栄さ	金沢市青草町・近江町市民交流プラザ4階集会室
	18	日	13:00	北陸原水協学校in福井／特別講演　藤森俊希さん	福井県福井市・福井県教育センター
	21	水	12:50	「戦争法廃止・共謀罪廃止・立憲主義を取り戻す」昼デモ	金沢市広坂・いしかわ四高記念公園 教育会館前口
	22	木		石川県知事選挙告示　3月11日投票	
	24	土	13:00	医療・福祉問題研究会例会 「母子世帯の子育ての困難について」 村上慎司さん	金沢市高岡町・金沢市松ヶ枝福祉館 4階集会室
	24	土	17:00	15年戦争と日本の医学医療研究会北陸支部 第7回研究会記念講演「旧731部隊本部遁走の経過」莇昭三さん	金沢市青草町・近江町市民交流プラザ4階第2研修室
	25	日	14:00	子どもと教育を考えるつどい 「安倍『教育再生』政策は子どもたちをどこへ導くのか」 俵　義文さん	加賀市JR加賀温泉駅前・アビオシティ加賀 2階研修室
27日（火）～3/1（木）				3・1ビキニデー	静岡県焼津市／静岡市
3	9	金	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	10	土	14:00	志賀原発廃炉求める県民集会	金沢市広坂・いしかわ四高記念公園中央口
	10	土	18:00	石川県保険医協会総会記念講演　木村草太さん	金沢市三社町・石川県女性センター　ホール

＊ 祝日は休日とします　＊ 毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊ 毎月15日石川県沖縄連帯デー